

## 令和4年度の活動報告（4月）

### 千葉市学年別大会（4/2・3 千葉公園体育館）

今年度は新3年生のみ実施

男子		女子	
準優勝	塚田	第3位	園田
ベスト8	渡邊	ベスト16	北見
ベスト16	山口		



千葉市の学年別大会が2年ぶりに開催されました。高体連以外の大会参加も2年ぶりとなり、特にレギュラー以外の選手たちが試合経験を積めたことに大きな意義がありました。新型コロナウイルスの影響で棄権したチームなどもありましたが、塚田、園田が過去15年の市立千葉としては初となる準優勝・第3位と大健闘しました。



### 関東大会第8地区予選会（4/23）

男子（会場 千葉西高校）	
準々決勝	千葉西 2-1 ○
準決勝	千葉北 2-0 ○
決勝	京葉工業 2-0 ○
結果	1位 県予選進出



学年別大会では、同じ千葉市で切磋琢磨してきた選手たちと、試合を通じて交流し、このあと迎える関東予選・千葉県総体でのお互いの活躍を誓った。

目標の関東大会出場へ向け、予選が始まりました。直前まで入念に調整し、本番では今までやってきたことをしっかり出すことができたと思います。今回のリードオフマンとなった山口・渡辺のダブルスが試合毎に良い動きを見せ、決勝では最高のパフォーマンスを見せました。シングルスでは柱となった塚田が安定した試合を見せ、決勝で抜擢した高橋は終盤まで集中力を切らさず、驚異の粘りで相手を追い込み、決勝戦をストレートで勝ち、昨年新人大会以降の一つの目標であった地区1位を決めました。1週間後の県予選でも集中して、地区の代表としてどんな相手にも全力で臨みます。

### 関東大会千葉県予選会（4/29・30）

男子（会場 JFE体育館）	
1回戦	我孫子 2-0 ○
2回戦	千葉黎明 2-0 ○
3回戦	麗澤 2-1 ○
準々決勝	西武台千葉 0-2 ●
結果	ベスト8 第5位入賞
千葉県総体（団体戦）の出場権獲得	

女子（会場 八日市場ドーム 千葉公園体育館）	
1回戦	東葛飾 2-1 ○
2回戦	四街道北 2-0 ○
3回戦	袖ヶ浦 2-1 ○
準々決勝	千葉明德 0-2 ●
結果	ベスト8 第5位入賞
千葉県総体（団体戦）の出場権獲得	

目標の関東大会出場へあと4勝となる県予選。男女とも一年間の努力の成果を出せるよう気持ちを一つに挑みました。男子は2回戦S1の高橋が16-20と敗戦濃厚の状態から追い付いたあと、5回のマッチポイントを凌ぎ最後は27-25の逆転勝利。女子3回戦では県ベスト8のD1に対しファイナル17-19から巻き返し逆転勝利、女子は昨年の悔しさを晴らすベスト8入りとなりました。最終戦ではリーダーの塚田、園田が県の代表チームのS1と対峙し、接戦まで持ち込むも敗戦。関東大会出場はなりませんでした。粘り強く諦めない、市立千葉らしい試合ができました。



男子は公立校で唯一ベスト8に残り、また女子の関東大会予選ベスト8は35年ぶりの快挙となりました。

## ここからは令和3年7月～4年3月の活動報告です

### 令和3年度市立千葉高校生選手権大会（8/21・23）

（優勝者・組には新人大会地区予選の選手権が与えられる）

男子

シングルス 優勝 塚田  
準優勝 渡邊  
ダブルス 優勝 塚田・渡邊  
準優勝 高橋・新村

女子

シングルス 優勝 園田  
第2位 北見  
ダブルス 優勝 園田・黒川  
第2位 北見・木村朱

夏季大会の中止を受け、本来大会の予定だった日に昨年に引き続き校内大会を開催しました。条件付きのハンデも設け、順位に格差がある対戦も緊張感を持った試合を展開していました。また、ハンデを使う駆け引きはゲーム性があり、楽しみながら行うことができました。上位の結果には残っていませんが1年生も上位に食い込み、ここまでの成長がみられました。

夏季合宿が中止となったため、夏季休業中の大会に向け、各種校外での練習会へ参加しました。

### 令和3年度千葉県前期強化練習会 参加者

男子 塚田、渡邊

### 特別講習会①～③ 参加者

①男子 塚田、山口、渡邊、嶺岸、高橋、濱野  
女子 園田、北見、木村朱、黒川、榎本

②男子 塚田、渡邊、嶺岸、高橋  
女子 園田、北見、飯野、黒川、榎本

③男子 塚田、山口、渡邊  
女子 園田、北見、木村朱、黒川

夏季休業中は部活動に制限がかけられている中で感染症対策を取りつつ、できる限りの練習をしてきました。試合については市民大会や学年別大会に参加できなかった上、例年行われていた合宿も中止となってしまい、選手たちのモチベーションが心配でしたが、オリンピックの開催と重なったこともあり、世界で活躍する選手たちのプレイを見る機会が増え、その点も練習のモチベーションにできていたと思います。また外部で日本代表に関わる方々の講習会にも参加することで貴重な経験を積むことができました。そんな折、残念なことに夏季大会が中止となり、私たちのデビューは新人大会予選本番という事になりました。練習や意識についてはどのチームも苦労している部分だと思います。まずは新人大会予選1位突破から、県ベスト8以上、そして来春の関東大会への出場！の目標は見失わないよう、計画的に過ごし、活動自粛中の今は焦らず良い練習再開ができるよう準備を整えたいです。



一瞬の勝負の為に努力を続け、粘り強さと接戦の強さを武器に勝利を手にする。目指すは千葉県代表！

## 令和3年度千葉県新人大会第8地区予選

個人戦（10/2・3）

男子（会場 市立千葉高校、渋谷幕張高校）

ダブルス

7 位 山口・新村

シングルス

5 位 塚田 県大会進出

7 位 渡邊



女子（会場 千葉西高校）

ダブルス

3 位 園田・黒川 県大会進出

6 位 飯野・榎本 県大会進出

シングルス

6 位 北見 県大会進出

男女ともに新チーム初の大会に向け、練習を続けてきた。校外練習や市外上位校との練習試合で経験を積み、精神的な成長も感じられる。

新チーム初めての公式戦。夏季大会が中止になり、練習リズムも社会情勢によって変化する中でしたが、モチベーションを保ち4ヶ月間必死に練習を続けてきました。個人戦の結果は、男女ともに出場者全員が1勝以上し、相手校の1・2番手に勝利することも多く、県大会には昨年の5人を越える6人が進むことができました。来月行われる団体戦での活躍にも期待が持てる結果となりました。

シングルスでは、男子で塚田が少ない枠を勝ち取り、県大会へ進出。また渡邊も7位に入り、塚田とともに来春の総体地区大会でのシード権を獲得しました。女子は北見が勝負所で粘り強さを見せ、県大会の出場権を手に入れました。ダブルスでは、女子で園田・黒川が第1シードの敬愛学園を相手にファイナルゲーム20-17まで追い詰めるなど、大きな成長が見られました。しかし、最後に冷静なプレイができず逆転を許してしまったことは、成長しなければならない課題の1つです。

## 団体戦（11/3）

男子（会場 検見川高校）

準々決勝 千葉北 3-0 ○

準決勝 検見川 1-3 ●

3位決定戦 磯辺 3-0 ○

結果 3 位 県大会進出

女子（会場 千葉西高校）

準々決勝 渋谷幕張 3-1 ○

準決勝 幕張総合 3-0 ○

決勝 検見川 3-1 ○

結果 1 位 県大会進出

半年ぶりの地区の団体戦、来年の関東大会出場のためには、ここで最低でも県ベスト8以上を取って関東大会予選の推薦出場枠を手にしたところです。男子は3位以上、女子は1位を目標に予選に挑みました。男子は準決勝で検見川高校に敗れましたが、大事な3位決定戦をしっかりと勝ち切りました。また、団体戦デビュー組となる高橋、安田、新村、嶺岸が役割を果たし、経験値の高い塚田、山口、渡邊が安定した試合を見せ、新チームの形を作ることができました。

女子は敬愛学園が県大会推薦出場という千載一遇のチャンスが巡ってきていたので、地区1位通過を目指し、夏から全員でベクトルを合わせ練習に励みました。また、他地区の1位2位のチームとの練習試合を重ね、団体戦では全勝と万全な態勢で挑みました。試合では、勝負強いダブルスを展開する木村朱をD2の軸に、粘り強く戦える飯野、榎本、北見でS1をしっかりと守り、勝負を恐れず自分たちの良さを生かして戦いました。結果、相手の1番手をD2で消耗させることで、S2の試合が楽になり、加えてS1も全勝し、エースのシングルスで温存しながら戦い抜くことができました。練習から本番まで全員で力を合わせ、文字通りチーム一丸で地区1位を達成しました。

女子が地区編成以降で初の新人地区1位！与えられたチャンスをもにするには、目標を明確にした日々の努力の積み重ねが必要不可欠。1つ目の目標をクリアし、次のステージへ。  
写真は県大会用シャトルを持っての記念撮影。





## 令和3年度千葉県新人大会

団体戦（11／9・10）個人戦（11／12シングルス・16ダブルス）

男子（流山キックマンアリーナ、市川市塩浜体育館）

団体戦

組み合わせにより2回戦から

2回戦 木更津総合 1-3 ●

個人戦

シングルス 塚田

1回戦敗退

男子は木更津総合、昭和学院とベスト8レベルの2チームがいる激戦の山に入りました。木更津総合とは実力拮抗で、S1までの互角のところまで2勝を目指します。D1の接戦を2-0で制し、D2とS1でも接戦の1ゲーム目を取り、流れも良かったのですが、2・3ゲーム目中盤の苦しいところでミスが増え、いずれも後半ゲームを落として敗戦。終盤接戦での勝負強さは見られましたが、そこまで持っていく中盤の部分で課題が見つかりました。ベスト8も狙える中で悔しい敗戦となりましたが、強い相手にギリギリの勝負は、勝っても負けても次の成長につなげられるチャンスです。この悔しさをバネにもっと経験を積み、4月の関東大会予選では確実に地区1位で抜けるよう、練習していきます。

女子（印西市松山下体育館）

団体戦

組み合わせにより2回戦から

2回戦 千葉商業 3-0 ○

3回戦 成田国際 3-0 ○

準々決勝 西武台千葉 0-3 ●

結果 ベスト8 5位入賞

来年度の関東大会県予選推薦出場が決定

個人戦

シングルス 北見

3回戦敗退（ベスト16）

ダブルス 園田・黒川

2回戦敗退

飯野・榎本

1回戦敗退

北見が公立高校唯一の県ベスト16。私立で上位が埋めつくされる女子シングルスで大健闘。

女子は地区1位により12シードの山に入れました。今年の関東大会予選での悔しさや、夏の大会に出られなかった無念さをバネにここまで来ましたが、県大会でも勝負を恐れず、いつも通りの落ち着いた試合で勝ち進み、ベスト8に進むことができました。準々決勝の西武台千葉とは2年連続の対戦となりましたが、昨年以上の強さを感じました。これで目標の関東大会がグッと近づきましたが、ベスト4の壁を越えるにはさらに強くなれないといけません。ここは通過点としてさらに努力を重ねていきます。



女子念願のベスト8。女子の新人大会ベスト8は歴代3回目の快挙！2つ目の目標もクリアし、最後の目標である関東大会出場を射程圏内に。



男女ともにまだまだ伸びる要素があります。冬はもう一度体をしっかり作り、苦手な箇所の部分練習を重ね、より大事な試合・厳しい試合が待っている春に備えたいと思います。行こう埼玉！



## 12月 練習風景等



冬、感染状況の変化に対応しながらも明るい未来を信じ、コツコツ練習。



おそろいの関東大会記念 T シャツを着て練習。関東大会を応援しながら、出場を目指す！



学校で改めて表彰、ソーシャルディスタンスを保ち、式は校長室からのリモート中継。

### 東京遠征（1/6 東京都八王子市）

首都圏を中心の各都県実力上位の公立チームが集まり、関東大会へ向けた団体戦の大会が開催されました。本校は千葉県チームの1つとして選抜され、男女ともに参加しました。他県の参加チームには新人大会で叡明、川越東を破り準優勝した埼玉の大宮東高校男子や、関東大会常連の小岩高校男子、浦和北高校女子など、他にも多くの公立校強豪チームが出揃いました。関東大会で当たる可能性のあるチームや、他県ベスト8レベルのチームとの試合は大きな刺激になりました。また、千葉県チームとして選抜された中で戦えたことが自信にも繋がっていて、今後へ向けて非常に良い経験になったと感じます。

#### 主な結果

男子 2勝2敗

東村山(西東京)●、川和(神奈川)○、取手一(茨城)○、小岩(東東京)●

女子 0勝3敗1分

小岩(東東京)△、浦和北(埼玉)●、鴻巣(埼玉)●、東村山(西東京)●



男子はダブルス強化を目標の1つにしていますが、今回ダブルスで4勝、チームも2勝と結果を残し、特に渡邊・山口・高橋・嶺岸は試合毎に改善し、徐々に後半の接戦の強さや重要な2ゲーム目での強さや冷静さが増してきました。この1日の中でも成長が見られました。

女子は元々の少人数に加え、ケガや体調不良などでエースの不在や、出場回数の制限を余儀なくされるなど、厳しい状況で戦うこととなりましたが、ここまでしっかり練習を積んでくれた木村、北見や緊急出場の渡邊が活躍しました。チームの勝利こそありませんでしたが、浦和北以外に1勝することはでき、特に2番手ダブルスでのD1勝利や、初出場ペアでの勝利など、チームの柔軟性が向上し、今後のプラスになる材料が多く見つかりました。

また、男女ともに控えの選手たちも緊張感のある試合が多い中、集中して仕事を全うし、試合外であっても良い経験を積むことができました。

この大会では、感染症対策を実施したうえで保護者の観戦も各家庭2人まで認められ、特に2年生の保護者にとってはここ2年間で初めての試合観戦となりました。昨今の状況の中では、この形で実施

されたことは極めて稀で、保護者の応援は選手たちの頑張り大きく寄与していました。雪の降る中でしたが、遠いところ応援に来て下さった保護者の皆様、本当にありがとうございました。運営に携わってくれた都立高校の先生方や生徒達も貴重な1日をありがとうございました！





### 関東遠征（3/28～30）

まん延防止重点措置の期間が終わり、対外試合が解禁されました。毎年行っていた春季合宿については準備期間も少なく、予約していた宿などもキャンセルし中止としました。しかし、できる限りの活動を考え、昨年に引き続き宿泊はせずに県外遠征をしていくこととしました。昨年度は参加メンバーを絞っての遠征でしたが、今回は全員での参加としました。ここ数年の新型コロナの影響で失われつつある、絆や信頼関係を深め築いていくということを春休みの活動で強化していきました。

#### 3/28 高尾オープン

東京都で関東大会出場を目標とする関東圏の強豪チームが集結し、団体戦の強化大会を行いました。千葉県からは本校以外に東葉高校、松戸六実高校が男女で出場しました。

主な結果

男子 A 3勝2敗

立花学園（神奈川）●、駒澤大学（西東京）○、鴻巣（埼玉）○、西東京選抜●、川和（神奈川）○

男子 B 3勝1敗

芝浦工大（西東京）●、田無 B（西東京）○、駒澤大学 B（西東京）○、杉並総合（西東京）○

女子 2勝3敗

杉並総合（西東京）●、日体大桜華（西東京）○、市ヶ尾（神奈川）●、東葉●、川和（神奈川）○

男女ともに春休み前に実施したランキング戦の結果をもとにメンバーや作戦を再構築、1月の遠征では勝ちきれなかったシングルスにて男女ともに3勝と結果を残しました。登録されてない選手たちも、試合に出るレギュラーの負担を減らすため審判などの仕事に従事し、チームの勝利に貢献しました。



#### 3/30 茨城遠征

以前から交流があった茨城県強豪の下妻第一高校と1日交流試合を行いました。男子は新人大会でベスト4に入り関東大会を射程圏に捉えています。女子も良い選手が揃っていて、そういったチームと交流できたことで大きな刺激を与られました。同じ公立校で、同じ関東大会を目指すチーム同士、この交流を機にこれからもお互い応援しながら関東大会を目指して切磋琢磨していきたいです。

団体戦

男子 1戦目 1-2 ● 2戦目 1-2 ● 女子 1戦目 2-1 ○ 2戦目 1-2 ●



文武両道で県代表を狙う下妻一。本校との親和性も感じた。互いの健闘を祈りあう。

遠征でのお楽しみの昼食は、茨城の満開の桜の下でのお花見ということに。

バスを利用した遠征も最近では難しかったため貴重な体験に。タイトな日程の中でも絆が深まった。

過去5年間の高体連・千葉県協会主催大会の結果です。個人戦は県ベスト16以上を掲載しています。団体戦県以上の大会で初戦敗退の場合は「出場」としています。年度について、1つの代ごとにまとめています。(3年生の引退から次の3年生の引退までの期間)

### 令和2・3年度

#### 男子

団体戦  
 新人大会地区予選 2位  
 関東大会地区予選 1位  
 新人大会出場  
 関東大会県予選会 ベスト16  
 千葉県総体 第5位入賞

#### 女子

団体戦  
 新人大会地区予選 2位  
 関東大会地区予選 1位  
 新人大会 ベスト16  
 関東大会県予選会 ベスト16  
 千葉県総体 ベスト16  
  
 個人戦  
 新人大会 ダブルス ベスト16 齊藤・園田

### 令和1・2年度

#### 男子

団体戦  
 新人大会地区予選 3位  
 新人大会 第5位入賞  
 関東大会・総体 中止

#### 女子

団体戦  
 新人大会地区予選 3位  
 新人大会出場  
 関東大会・総体 中止

#### 個人戦

学年別大会 シングルス  
 2学年 ベスト16 上野  
 1学年 ベスト16 安藤 高橋

### 平成30・31年度

#### 男子

団体戦  
 新人大会地区予選 3位  
 新人大会 第3位入賞  
 関東大会県予選会 第3位入賞 千葉県代表入り  
 千葉県総体 第3位入賞  
 関東大会出場(25年ぶり15回目)  
 優秀学校賞受賞

#### 女子

団体戦  
 新人大会地区予選 地区8  
 関東大会地区予選 1位  
 関東大会県予選会 ベスト32

#### 個人戦

学年別大会 シングルス  
 2学年 ベスト16 岡本  
 1学年 ベスト16 上野 荒井  
 新人大会 ダブルス ベスト16 岡本・藤崎  
 千葉県総体 ダブルス ベスト16 山田・太田

平成29・30年度

男子

団体戦

新人大会地区予選 3位  
関東大会地区予選 2位  
新人大会 ベスト16  
関東大会県予選会 ベスト16  
千葉県総体 ベスト16

個人戦

学年別大会 シングルス

1学年 ベスト8 岡本

千葉県総体 ダブルス

ベスト16 三谷・岡本

女子

団体戦

新人大会地区予選 地区8  
関東大会地区予選出場

平成28・29年度

男子

団体戦

新人大会地区予選 地区8  
関東大会地区予選 6位  
関東大会県予選会出場

女子

団体戦

新人大会地区予選 3位  
関東大会地区予選 地区8  
新人大会出場

個人戦

新人大会 シングルス ベスト16 岩名



## 栄光の歴史（現存する資料を基に、団体戦の結果を主にまとめています。）

- 昭和36年 創部  
42年 男子関東大会予選・県総体準優勝で関東大会出場  
この後9年連続関東大会出場  
44年 男子新人大会初優勝  
45年 男子関東大会予選初の1位  
46年 男子県総体にて宿願の初優勝  
53年 男子10度目の関東大会出場 関東大会ベスト16  
10回出場の栄誉を称えられ関東高体連から表彰を受ける  
56年 創部20周年  
61年 男子関東大会予選3位で関東大会出場。新人大会2位で関東選抜大会出場  
女子新人大会ベスト8  
62年 女子関東大会予選ベスト8で関東大会初出場を逃すも県総体にて3位  
63年 男子関東大会予選2位で関東大会出場 関東大会ベスト16
- 平成 元年 男子関東大会2年連続13回目の出場  
6年 男子関東大会予選5位で14回目の出場  
9年 男子県総体ベスト8  
13年 創部40周年  
19年 男子新人大会ベスト8  
地区編成により地区が現在の12に、敬愛学園が同じブロックへ編入される  
20年 男子関東大会予選・県総体ベスト8 男子優秀学校賞受賞  
22年 男子新人大会ベスト8  
23年 創部50周年  
男子関東大会予選ベスト8、女子新人大会ベスト8  
30年 男子新人大会ベスト4
- 令和 元年 男子関東大会予選・県総体ベスト4 男子優秀学校賞受賞  
関東大会25年ぶり15回目の出場 男子新人大会ベスト8  
2年 新型コロナウイルス感染症まん延のため、関東大会・総体が中止  
3年 創部60周年  
男子県総体ベスト8 女子新人大会ベスト8  
4年 男女関東大会予選・県総体ベスト8 女子優秀学校賞受賞

昨年創部から60周年を迎えた歴史ある市立千葉高校バドミントン部。男子の関東大会出場回数は千葉県で6番目の多さであり、公立校では木更津高校に次ぐ2番目となっている。男子個人では昭和43年にダブルスでインターハイ初出場を筆頭に、昭和45年新人大会にてシングルス・ダブルスでの優勝、昭和48年国体のダブルスで4位、昭和59年・60年には新人大会のシングルスで2年連続優勝、国体の県代表選手に選ばれるなど多くの名選手を輩出した。女子では昭和61年・62年の黄金世代で新人大会・関東大会予選ベスト8、県総体では3位の成績を残している。

近年の千葉県は他関東圏の状況と比べて私立高校が上位を埋めつくし、公立校が関東大会や全国総体へ出場するのが難しくなっている。しかし、その状況で平成と令和の境目に突破口を切り開いたのも市立千葉であり、けしてやり遂げられないことではない。先人たちが築き上げた歴史の上に立っていることを自覚し、市立千葉としての矜持で大きな目標に向かって努力を続け、新たな歴史を作っていきたい。